

理研会報

印旛郡理科作品展

行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田中学校
成田市土屋928-1

小学校論文の部

木村小 伊藤 久男先生

低学年では、身の回りの出来事や生活の中からテーマを見つけ、観察・実験をしてまとめた作品が多く見られました。今後の課題として、子どもの発想を大切にしながら、追究すると面白そうな観点について親や担任からのアドバイスがあると、より一層深まりのある作品に仕上がると思います。

中学年では、身近な生活の中だけではなく、理科学習で学んだことを基にして自分なりに追究した作品が多く見られました。今後の作品作りのポイントとして、論文としてのまとめ方を工夫すると作品に厚みが加わると思います。

高学年では、インターネット等を活用し、資料を豊富に集めてまとめた作品が数多くみられ

ました。今後の取り組みに期待する点として、調べたことから生まれた疑問について、もう一步踏み込んで追究してみることがあげられます。

中学校標本の部

七次台中 松田 治久先生

今年度は、どの作品も丁寧にきれいに仕上げられていました。植物標本では、根まで完全な形として標本づくりをしているなど、基

本的な学習ができています。指導してくださった先生方や保護者などのアドバイスが良かったのだと評価が高かったようです。

毎年、植物、昆虫、岩石、化石など様々な標本が出品されます

が、今年話題になつたのが、カニの標本とサボテンのトゲの標本でした。カニの標本は千葉県立博物

館の学芸員の指導を受けて作製されたものですが、カニの甲羅から足、ハサミの先まで美しいものが作られていました。それに気づき、トゲだけを集めてサボテンのトゲに特徴があることに気づき、トゲだけを集めて

標本が作られていました。それとサボテンの名前が調べられており、トゲを見るだけでサボテンの名前が推定できる資料となっています。

標本づくりは地味な作業ですが、その活動のなかで科学的に自然を見る目や、考え方が自然に育てられると思います。教科書の学習や教室での学習から離れた夏休みの期間にぜひ取り組んでもらいたいものです。

中学校論文の部

四街道北中 魚井 一郎先生

中学校科学論文の審査をいたしました。さすがに各部会から選ばれてきた論文だけあって、いずれも優秀な作品ばかりです。特に1年生の作品に力作が多かつたように思います。

審査した作品の中に見られる特徴は、繰り返し実験を行つてデータをたくさん取り、時間をかけて結論を導き出そうとしているもの。数年にわたり一つのテーマで追究し、年を追うごとに研究の内容が充実してきているもの。地域の自然を丹念に調べ上げ、地域を再認識している

た作品があり、残念に思いました。やはり審査のときにきちんと動作することが条件です。

例年言っていることですが、やはり工夫作品はアイデアがポイントです。簡単な構造でも、アイデアが良ければ入賞します。例えば、使い終わったガチヤ玉を再利用するために考えた「簡単ガチャ玉取り付け機」は、たったプラスチックの板2枚とボタンの名前が推定できる資料となっています。

アイデアが良いため金賞に選ばれました。日頃不便だなと思つていることを解決したり改善したりしてみる努力をしてみるとよいでしょう。

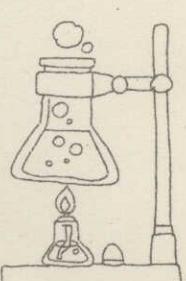
中学校論文の部

四街道北中 魚井 一郎先生

その中で金賞を得たのは、研究のねらいがはつきりしているもの、データの数が十分でデータ処理も適切なもの、科学の手

法がよく指導されているもの、中学生らしい視点で取り組み、自分なりの考察がなされているもの、などでした。また、継続性のあるものも高い評価を得ています。

これまで研究で得たものは、これからの課題についても触れておきます。中には、観察や実験のねらいが希薄であったもの、などあります。観察や実験が、



観察のための観察、実験のための実験、になってしまい、課題を解決しようとする姿勢が見えてこないので。さら

に、研究であれば課題を一つ解決することに新たな疑問が生まれ追究していくものです。が、ここでも、実験・観察がこまぎれで関連が薄いです。ねらいが焦点化すれば、もっと発展できるレポートも多いと感じました。今後の指導の参考にしていただければ、と

理研会報第二九八号をお届けいたします。今は、「郡理科作品展」について掲載させていただきました。次号は「県作品展」に出品した作品について掲載したいと思います。

投稿等につきましては

各研究部長にお尋ね下さい。

(印教研理科研究部
事務局)